

射水市総合計画審議会 第1回活力元気部会 会議録

○日 時 令和4年2月16日(水) 午前10時～11時30分

○場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

○出席者

(委員)

岩口久梨果、大西宏治(リモート参加)、牛塚松男、尾山春枝、古池清一(リモート参加)、笹川征一、塚本清、津田奈由子、牧田和樹、森由佳子、亘建邦、鈴木真由美(オブザーバー、リモート参加)、宮城克文(オブザーバー)

※欠席委員

なし

(当局)

現地参加

小塚企画管理部長、宮本産業経済部長、島崎都市整備部長、杉本企画管理部次長、福井産業経済部次長、南都市整備部次長、菅原未来創造課長、片口商工企業立地課長、久々江港湾・観光課長、遠藤農林水産課長(農業委員会事務局長)、橋本都市計画課長、山口道路課長、酒井建築住宅課長、高橋用地・河川管理課長、盛光政策推進課長

リモート参加

橋本上下水道部長、吉田上下水道部次長、堀上下水道業務課長、前田上水道工務課長、山下水道工務課長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 各部会の所管事項及び日程・協議事項について

(2) 政策ごとの課題の整理と主要施策(案)の検討

政策推進課長

※資料1・2に基づき説明

部会長

「活力元気」は、人の動き、交流がないと生まれない。射水市に関係する人を増やし、交流する人を増やし、定住人口を増やしたい。本日は、資料の項目に対する意見ではなく、身近なところで感じていること、こんなことをやったらいいのではないかと、どのようにしたら交流が生まれるか、射水市に関係する人を増やしていけるか、関係人口を増やすために有効だと思うアイデアを出してほしい。

委員A

ニッチな市場でも1万人いれば1人のニーズがあると言われており、射水市に1万人来てくれると1人は住みたいと思う人が出てくると考えられる。ただ、その人が住める環境かどうか、という別の問題が出てくる。そういう人達を掴むというのはどういうことなのか、ということを考えてもらえればと思う。

部会長

県立大学の規模を拡大して大学生をたくさん呼ぶ。また、美味しい料理のお店を増やす。2次交通をスムーズにする。

副部会長	<p>首都圏の大学の体育会系合宿の誘致を進めると、学生が滞在し、射水市を知ってもらえたり、新しい学生目線の意見を得ることができると思う。</p> <p>期間限定で首都圏の学生を対象にした農業、漁業などの就労体験を実施する。</p> <p>古民家や空き家を改装する形で射水市をより知ってもらえるような滞在型の企画をしてはどうか。</p> <p>首都圏など富山県外をターゲットにリモートワークを活用した2拠点生活を推進する。</p>
委員B	<p>空き家・古民家再生の観点からの意見になるが、集落単位で得意なことや方向性をまとめるための出前講座を実施してはどうか。</p> <p>空き家バンクについて、空き家のリフォーム後を3D化したり、どんな世帯に向けた住宅かアドバイスをするなど、分かりやすい情報発信を行う。また、空き家のDIYツアーを実施してはどうか。</p>
委員C	<p>女性が都会の大学に行って戻ってこないのは、地元働く場所がないからであり、地元の人々が努力して、喜んで戻ってきてもらえるようにする必要がある。子育て過程において、射水市の伝統文化教育等を実施して、地元へ愛着を持ってもらうことが大事である。また、漁業者の生活体験を実施したあとに交流が続いていた経験があり、職場体験があってもいいと思う。</p>
委員D	<p>4月末にオープンするフットボールセンターには、AIカメラとローカル5Gを設置している。これを合宿誘致につなげることができればいい。</p> <p>また、PFIでベイエリア周辺にグランピングを誘致することや、映画の誘致ができないかなと思っている。</p> <p>富山県のスマホの保有率は、2021年に全国で2位となっている。スマホの時代であるため、どのようなアプリを作るかが大きなポイントになる。アプリを使った情報伝達を広めないといけないが、そうすると高齢者が取り残される。そのための高齢者向けスマホ教室を開催することが必要だと思う。</p> <p>DXは住みやすさの一番重要なツールとなる。これを見える形でどのように実施していくかが課題である。</p> <p>射水市は「ゼロカーボンシティ宣言」をしなければならないと思う。富山県内で際立つ形になれば良いと思う。</p>
委員E	<p>若者の出会いの場の創出があるといいと思う。人と人の出会いのみならず、食べ物との出会いや伝統芸能との出会いなど、そういったものと触れ合える機会・場を提供すれば、つながりが生まれると思う。また、イベント団体同士の意見交換の場や勉強会の場の提供があるといいと思う。</p> <p>利用している地域の店では、後継ぎがないために店を閉めようとしており、後継者を探しているお店と経営者になりたい人とのマッチングの仕組みがあると上手くいくと思う。</p> <p>除雪を求めている高齢者とバイトをしたい若者とのマッチングの場があると、除雪と併せて地域の交流も深まるのではないかと思う。</p> <p>現役世代が活用しやすいよう、アプリなどを活用した空き家情報網が整備されるといい。</p> <p>自治体と学生の交流について、例えば消防団に参加することで家賃補助などがあればいいと思う。さらに空き家のシェアハウスなどをつなぐことができればと思っている。</p>
委員F	<p>事業所を増やすことが重要になってくる。大きな会社を誘致して就労者を増やすのはもちろんだが、若者が個人で店を出したいニーズに応えることも大事である。ただ、場所がない、支援を受けられないといった課題をよく聞くため、空き家の活用などができればいいと思う。また、商業の活性化も大事だと思う。日常生活は問題ないが、少し変わったことをしようとすると市から出ていってしまうため、个性的なお店を出したい人への支援体制を強化してもいいと思う。</p>

	<p>大学のカリキュラムの中に地元企業との連携を増やし、大学在学中から射水に残って働きたいと思ってもらえる風土を醸成し、大卒者の射水市内への就職率を上げていく必要がある。</p>
委員G	<p>仕事で交わる以外の非日常的なコミュニティが求められる傾向にある。そのため、射水を起点として定期的に行うイベントやチームでの活動を確立していくことが大事だと思う。</p> <p>農業やまちづくり、漁業などのコンテンツでチームとなり、どこかが一括編集・発信する仕組み、地域ぐるみで発信していく体制づくりができればいいと思う。</p> <p>普段交わらない方々のコミュニティがあれば良いと思う。</p>
委員H	<p>交通網の発達などで中京圏、名古屋が近くなったように感じている。そういったことを利用して、消費者と産地の交流や観光につなげられればと思う。</p> <p>家賃が高いと学生が住まない。そうすると学生が増えない、賑わいが生まれにくい、施設等ができない、の悪循環になる。学生は車がない人も多く、近場に住みたいと思うので、住宅関係について考えることができればと思う。</p>
委員I	<p>観光、産業どちらにもとれるが、「地域の個々の魅力をストーリーでつなぐ」ということに関連して提案したい。観光に関しては、団体旅行から個人旅行に移行しており、地域を知る体験型の旅行を要請されたり、地域の成り立ちなどストーリーを聞きたいと言われる。空き家、グランピング、映画など個々のストーリーをつなげていくとニーズに合うと思う。地元の当たり前を物語としていくことが、来てもらえるきっかけや人の動きをつくることになると思う。</p>
委員A	<p>修学旅行の誘致をしてはどうかと考えている。立山町では、大阪の中学生に簡単な農業体験をしてもらう農家民泊を実施しており、秋や収穫時期に家族連れでもう一度訪れてくれるケースがある。多くの人に射水市に触れてもらう、来てもらうきっかけ、仕組みがあるといいと思う。特別な観光地でなくても、生活の豊かさを感じてもらえれば、大人になってから思い出してもらえらる。</p> <p>県外出身の射水市内の大学・短大・高専・専門学校学生の卒業後に第2のふるさととして関わる仕組みがあるといいと思う。職種、働き方を20代でみるのではなく、30代、40代になった時に戻ってこられる仕組みを考えてもいいと思う。そのために生活満足度を上げ、発信してもらうことが重要である。</p>
委員J (オブザーバー)	<p>空き家の認定までの基準を緩和し、認定までの期間を短くすべきだと思う。</p> <p>マイクロツーリズム対応として、市内に眠っている観光資源になりうる渋い資源を掘り起こすことが大切だと思う。ディープな射水市の魅力を掘り起こすべきである。また、小杉駅に人とまちをつなぐ機能を持たせるべきだと思う。小杉駅はライトな関係の人の利用が多く、そういった方に情報を発信して縁を結ぶのはどうか。</p> <p>DXの面では、高齢者はテレビが身近なので、テレビを活用してはどうか。</p> <p>また、現役世代が地域に関わりやすくなるような仕組みの検討や、応援する機運の醸成を図れば良いと思う。</p>
委員K (オブザーバー)	<p>外部から人を呼び込む時の話として、観光以外で射水市に来られる方に対して、古民家に滞在してもらおうなど、射水市をもっと知ってもらえる活動があるといいと思う。</p>
副部会長	<p>外から人を呼びたいというのと、地元の人が地元を良く知り発信するという両輪が必要だと感じた。射水市の良い記憶を良い状態でターゲットを絞って発信することが大事だと思う。</p> <p>DXとして、仮想空間で射水市の強みをPRして見に来てもらうところから、実際に足を運んでもらうことにつなげるのはどうか。</p> <p>高齢者だけでなく小学生など誰でも簡単に乗れる移動手段を考える。</p> <p>地域を知る取組として、電子回覧板やテレビで地域情報が分かるような施策を考えてもいいと思う。</p>

一方的に発信するだけでなく、発信したら返してもらえる双方向のやり取りができるといいと思う。

部会長 本日いただいた意見等については、次回の部会での協議資料に反映する。次回資料への反映については事務局と私に一任してほしい。

次回の部会の前にもう1回こういった機会があるといいと思っているがいかがか。

(異議なし)

部会長 では、日程調整の上、もう1度機会を設けたい。

4 その他

部会長 最後に事務局から連絡等はあるか。

事務局 今後の予定については改めて調整させていただく。全体会については5月頃にできればと考えている。

5 閉会

以上